

千年の草原を守る 持続可能な農畜産業



自：自然共生
資：資源循環
低：低炭素

キーワード 地方創生、官民連携、食、ブランド化

フィールド 九州・沖縄
(熊本県) **里**

実施体制

牧野組合、地元NGO/NPO（阿蘇グリーンストック、阿蘇草原再生シール生産者の会等）、行政（環境省九州地方環境事務所、農林水産省九州農政局、熊本県、阿蘇市及び阿蘇郡（3町3村）等）



アクションの目的

阿蘇の草原環境を保全すること。

アクションの背景

阿蘇草原は千年以上にわたって農畜産業により維持されてきた二次的草原で、毎年1,700万人を超える観光客が訪れる。しかし、社会経済状況の変化から野草利用の減少に伴い草原面積も減り、また、その中で生育してきた植物が絶滅の危機に瀕している。

草原の危機に立ち向かうため、2005年に阿蘇草原再生協議会が設立され、農畜産業の担い手を地域内外の多様な主体がマンパワー・資金双方の面から支える様々な取組が行われている。協議会のメンバーである阿蘇グリーンストックでは2004年からあか牛オーナー制度に、阿蘇草原再生シール生産者の会では2005年から野草堆肥利用による農産品の生産・消費拡大に取り組んでいる。

アクションの内容

【あか牛オーナー制度】

都会からでも参加できる草原保全活動のひとつ。主旨に賛同頂ける都市市民に一口30万円で牛のオーナー（5年契約）になってもらいそのお金で放牧用の繁殖母牛を増やし、また、オーナーに毎年6万円相当のあか牛肉等を届けあか牛肉の消費拡大に繋げるにより草原の再生に寄与している。オーナー制度を始めた当初は、あか牛農家の支援とあか牛肉の消費拡大が目的だったが、今や阿蘇のあか牛は全国的に人気となり、手に入りにくいものとなっている。あか牛肉を食べるだけでなく、オーナー牛とのふれあいや、地元畜産農家との交流も、オーナーにとっては魅力のひとつである。

【阿蘇草原再生シールを添付した野菜】

阿蘇草原の野草を採草してできた堆肥で育てた野菜に独自のシールを貼付して、阿蘇市内の直売所で常時販売を行うほか、熊本市内や関西・関東でもイベント販売を行ってきた。また、消費者など一般の方を対象に農業体験イベントを実施し、阿蘇の自然に親んでもらいながら採れたての野菜の味を体験するきっかけ作りも行っている。阿蘇の野菜生産者と消費者をつなぐ取り組みの一つである。

アクションのポイント

◎阿蘇草原を維持していくためには、多様な主体が共通の認識を持ち、長期にわたって連携していくことが求められることから、自然再生推進法に基づく協議会を設けている。協議会のメンバーがそれぞれ様々なかたちで連携しつつ、独自の取組を進めている。

◎地域内の人・団体はもちろん都市の住民・企業等でも、阿蘇草原の恵みを受けている個人や団体が農畜産業の担い手を支え、阿蘇草原を未来に引き継ぐことのできる、様々な仕組みづくりが進められている。

アクションの効果と今後の展開

○あか牛オーナー代表者会議を定期的開催し、あか牛農家、オーナー、事務局で、取組に関する協議を行っている。交流会の開催時のマスコミ取材、通信の発行などにより、オーナーの拡大を図っている。

○野草堆肥には、一般の堆肥の数十倍もの善玉菌があり、できた野菜は苦みが少なくおいしいとして好評を得ている。消費者が、阿蘇の生産者とかかわり草原再生のサポートに携わるきっかけとなっている。今後も、野草堆肥生産者と、草原再生サポーターの拡大をめざす。

公益財団法人阿蘇グリーンストック

〒 869 - 2307 熊本県阿蘇市小里656-1

○ TEL / 0967-32-3500 ○ FAX / 0967-32-3355 ○ E-Mail / green-s@aso.ne.jp
○ web / <http://www.asogreenstock.com/>